

# 動き出せば、何かが起こる



# ひかり新聞

共生共助の社会をめざす

2024.4.10  
No.49  
一般社団法人  
ひかりプロジェクト

元日夕方方の地震発生以来、一日も早く支援活動をと願ってきました。そして、4月後半から、能登半島地震被災者支援のボランティア活動を始めます。東日本大震災の時や、その後、各被災地に向いた際、お世話になってきた金光教首都圏災害ボランティア支援機構との共同プロジェクトとして活動します。

3月8日(金)〜10日(日)に、現地調査に行ってきました。能登半島特有の地形もあり、まだ道路事情も悪く、奥能登と呼ばれる輪島市、珠洲市、能登町などに行つて活動することは、容易ではないことを改めて実感しました。

ボランティアに参加してくださる方々のことを考え、富山県側に拠点を設け、宿泊ができ、継続した活動ができるようにする。そして、その拠点から近く、被害も大きかった七尾市周辺で活動を始めました。

もちろん、状況が変われば活動する場所も変わる可能性があります。現在、石川県では県外の一般ボランティアは、県の災害対策ボランティア本部のサイトで事前登録し、県からの案内に応募し、決定通知を受けた人だけが活動できる仕組みです。また、原則は金沢を起点にバスで往復する活動ですが、穴水町に2月26日から奥能登地方で活動するボランティアのために宿泊拠点が設けられました。これまで片道3時間ほどかけて金沢から日帰りしていたの比べ、一歩前進です。県に登録している個人ボランティアは2月末で2万9千人余りと言われていますが、能登半島各市町へ派遣される一般ボランティアの合計数は今日現在、最大でも200〜300名ほどです。現地を見た限り、どう考えてもボランティアが不足しています。

今回、七尾市のボランティアセンターで担当の課長さんに、週末ボランティアとして独自に受け入れてほしいと依頼しました。「現時点の県の方針もあり、七尾市独自で受け入れることはできない」という返事でした。私たちは、このゴールデンウィークあたりから、それぞれの市町のボランティアセンターが独自に受付を行うことになると予測して、先のお願いをしたわけですが、県の方針がどう変わるか、今のところ分からないということでした。

その後、のと里山海道を経て輪島に行き、また翌日には砂地で液状化現象が激しい金沢市の隣、内灘町にも向かい、今回の地震による被害状況や、輪島の朝市が開かれていた一帯の火災現場を見て回りました。その状況を見て被害の大きさに呆然とするばかりです。3日間の調査で、当初の週末ボランティアの受入れ体制作りと参加の呼びかけを行う方針から、少人数でもまずは動き始めようという方針を変えました。

**「動き出さなければ、何も始まらない。動き出せば、何かが起こる」**

まず、身近なところから活動していくことにしました。そして拠点も射水市に決まりました。

東日本大震災、熊本地震での活動を振り返ると、ひかりプロジェクトでは被災現場の片付け支援から始まり、仮設住宅ができてからの、被災者の孤立防止を目的とした寄り添い支援などで様々なイベントを開催するなど、取り組んできました。今回の能登半島地震でも、息の長い活動になると思います。会員や活動に賛同して下さる皆様のご協力を、よろしくお願いいたします。

(藤原 眞久)

# 令和6年能登半島地震の被災地へ

▼菱田 正樹さん（東京都墨田区）

## 迅速な初期支援、その思い

1月15日(月)から18日(木)、七尾市・能登島、輪島市で、ボランティア活動を行いました。

元日の夕方、地震のニュースを目にし、『何かできることは…』と思つて毎日。緊急期を過ぎ、復旧期となったにも拘わらず、多くの孤立地がある、物資が無いという情報が繰り返されました。

『少しでも』お役に立ちたいと、毎日変わり続ける情報を、能登にいる親族、知人やSNSから集め、今、必要な物を調べ、前日との違いから先をも予測し、物資を厳選して箱にまとめ、大雪の中を東京から現地まで支援物資輸送車で届けることができました。



支援物資を自動車に満載して

私にはこれまでのボランティア活動の上で行動の源となっている詩があります。

来てくれと言われるところ

行ってあげたい

何もできはしないけど

迷惑にならぬよう

そっと黙って いてあげたい

たとえどんなに遠くても、悪路でも、ひとりしかいなくても、迷惑をかけずに、寄り添える活動を続けていきたいです。

▼松岡 龍也さん（秋田県）

## DWATの一員として活動

1月30日(水)から2月4日(日)、秋田県からの要請を受け、秋田県災害派遣福祉チーム(DWAT)として、石川県に入りました。このチームは、派遣の研修を受けている人のみのメンバー構成となっています。

石川県からの要請内容は、避難所で福祉ブースを運営し、避難されている方の福祉的トリアージを行い、次に繋げることがメインです。また、他の支援チームとの調整や各役場との調整なども行いました。

私はDWAT本部にて、各避難所のチームとの連絡調整、チーム間の調整、輪島市での拠点探し、状況把握などの



秋田県DWATとして石川県に入る



仕事でしたので、残念ながら、避難所におられる被災者の方々と触れ合うことは、ほとんどありませんでした。

地震発生後、1か月経過するタイミングでの派遣でしたので、避難所は日中、年配の方が多く、若い方々は自宅の片付けや仕事に行っていました。ですから、介護が必要な方々が避難所に残っているという様子でした。

今回派遣されて感じたのは、これまで行ってきた研修内容とは、全く違ったことが日々行われており、戸惑いが多かったことです。



倒壊した家屋が道路を塞ぐ



輪島朝市の火災跡

秋田チームが入るまでは、人員不足で、避難所と本部の連携がうまくいっていませんでした。私たちが入ってから、避難所を直接確認し、本部へ状況を伝える「情報伝達」ができるようになってよかったです、本部や他のDWAATチームメンバーから伺い、少しはお役に立てたのかなと思います。

昨年夏、秋田では大雨災害もあり、これからもこのような災害はあり得ると思われれますので、もっと福祉を理解していかなければと思っています。

避難所でコロナ陽性者が発生した際には、すぐにDMAT（災害派遣医療チーム）と連携を取って患者を隔離し、対応する人を固定してゴーグルとN95マスクをしているとのことでした。

避難所開設時には、喉の痛み、目の乾燥などを訴える人も多かったようですが、空気清浄機などを設置することで、訴えは減ったと聞きました。また、加湿器がある避難所とない所では、かなり差があったということです。



押しつぶされた自動車

横倒しになったビル



これだけ大きな震災になると、被災した県の職員も被災しており、なかなかDWAAT等の活動ができません。他県のDWAATメンバーがメインで動くことになり、地理的理解にも難しさがあると思いました。

事前にイメージしていた、被災者への支援をする機会はありませんでしたが、支援をする人たちの、支援をすることの大切さを考えさせられました。

改善点として、DWAAT活動の組織運営をするうえで、連携についての研修をもっと行う必要性を感じました。

災害時には、福祉チームというものがあるということも、周囲にも伝える必要があり、そしてメンバーをもっと増やさなければと思いました。

### ▼辻井 学さん（石川県小松市）

#### 炊き出しボランティアに参加

輪島市門前の炊き出しボランティアに参加しました。

報道でも被災地の厳しい様子が伝えられ、ボランティアを志願する声は各地から多数寄せられています。しかし震災発生から3か月近くが過ぎようとしている今なお、被災地へ向かう道路の整備、作業する人々の宿舍の確保が追いつかず、そのため現地では大規模なボランティアの受け入れが困難な状態が続いています。

こうした中、知人が所属する海外青年協力隊OB会で、避難所からの要望を受け、定期的に日帰り、少人数による炊き出し活動を行っていることを聞きました。そこで「人手が足りない時、会員ではないが、助っ人として参加できないか」と尋ねたところ、快く受け入



厨房は校舎の玄関内です

れてくださり、2月12日（休）に諸岡公民館、2月23日（祝）に門前中学校（私は23日のみ）での炊き出しに、仲間4人と共に参加しました。

急速な勢いで少子高齢化が進んでいるこの地域の避難所では、食事のお世話ができる人が限られており、毎食の支度や後片付けは大変な負担となっているようです。そのため食事の内容も偏りがちで、両日とも中華丼200食余りを提供させてもらいましたが、野菜をふんだんに使用した温かいメニューはとても喜んでいただきました。

3月以降、炊き出しの提供はかなり減ってきているそうです。一方で避難所の状況はあまり改善されておらず、「せひまた来てほしい」との要望もあり、3月24日（日）、再び行ってきます。被災地からのニーズは刻々と変化しています。その都度、現地の声に耳を傾けつつ、今の私たちにできる支援のあり方を、ここからも模索していきたいと思っています。



ご飯は水の使用が少ない無洗米が大助かり

▼鈴木 國夫さん（東京都八王子市）

## ランドリーボックスを被災地に支援

鈴木國夫さんの会社「ファミリーレンタルリース(株)」が、能登町に洗濯機を積んだコンテナを設置されました。その様子は次のように報道されています。  
鈴木さんに、直近の様子を伺うと、「仮設住宅の建設が始まり、現在は洗濯機と脱水機を仮設住宅向けに提供しています」とのことでした。

【NHKニュース 2月11日放送】

能登半島地震の影響で広い範囲で断水が続く石川県能登町では、コンテナに洗濯機を備え付けたランドリーが設置され、被災した人たちが次々と訪れ



ています。地震で大きな被害を受けた能登町では、町内のおよそ3分の2にあたる4000戸余りで断水が続いていて、全域で復旧する見込みは来月上旬以降とされています。

こうした中、能登町宇出津新港にあるホームセンターでは、洗濯機が備え付けられたコンテナが10日から設置されています。

このコンテナは、東京・八王子市のコインランドリーを扱う企業が、町に無償で提供していて、14台の洗濯機が並んでいます。11日は袋やかごにいっぱい洗濯物を持った人たちが朝から列をつくり、次々と洗濯を済ませています。



## 《先遣隊派遣報告》

3月8日(金)から10日(日)、有志5名で現地の事前調査を行いました。

能登半島へのアクセスのよい富山県に拠点を設け、支援先は約2,000棟が被災した七尾市を候補地として、4月からの支援開始に向けて、準備を進めることになりました。

### 「拠点調査」

活動を行う上で必要な拠点の条件を考慮して、富山県射水市で物件の下見をしました。

### 「輪島市」

輪島へ向かうのと里山海道は2車線の道路が崖崩れで崩落し、元の道路左側に仮道を作って通れるようにして



のと里山海道は片側通行



輪島郊外の住宅被害

いる箇所が数多くありました。輪島市内中心部では、朝市の周辺は火災跡地のままで、住宅も傾いて道路にはみ出したり、隣家に寄り掛かったり、倒れたままの状態がほとんどで、2か月以上経ってもほとんど手がついていない印象を受けました。



のと里山海道沿いの崖崩れ

### 「内灘町」

液状化による被害が、甚大であると報道された内灘町。地面の隆起や沈下により、家屋や電柱は傾き、道路はうねったり傾斜していました。2か所の民家では、軽トラックを使用して機材の搬出をしましたが、ボランティアの姿はなく、復旧作業は、まだ開始されていない様子でした。



内灘町 橋桁が隆起して通行できない橋



内灘町 液状化でうねった道路と傾いた建物

### 「全体を通しての感想」

能登半島地震発災後、70日ほど経過して、電気・上下水道等のインフラの復旧に力を入れている様子は見られましたが、被害を受けた一般住居の片付けや、道路に倒れ込んだ家などの撤去工事などが遅れている印象でした。

また、各地でボランティアが活動しているという様子は、残念ながら見られませんでした。

まず、拠点を確保し、できるところから、現地での活動を始めていくことを確認しました。

## 清掃用タオルについて

七尾市災害ボランティアセンターの開設を確認して、1月30日と2月14日に清掃用タオルのニーズを問い合わせましたが、「現在は震災不要品を廃棄物仮置き場へ搬送している段階なので」とのことでした。

3月7日に三度連絡すると、「清掃用タオルが必要になったので、是非支援してほしい」と言われました。

タオルの種類・数量・送り先等を伺い、早速、500枚送りました。

3月9日(土)、七尾市災害ボランティアセンターを訪問した時、担当の課長さんから、最初に、清掃用タオル送付に対して感謝のお言葉を頂きました。支援活動をするにあたり、私どもが考えている支援活動を説明し、課題について打ち合わせをしました。

その後、センター内を案内していただきました。  
(橋本敏廣)



七尾市ボランティアセンターの方と打ち合わせ



ボランティア用の資材置き場の部屋に、HPAからの支援タオルもありました



七尾市ボランティアセンター内部

## 第8回定時総会開催

2024年3月3日、兵庫県神戸市・金光教西近畿教務センターの2階会議室およびZoomにて、第8回定時総会が開催されました。なお、議案および報告事項は、すべて承認されました。

詳細等については下記URLをご参照ください。

<https://www.hikari-project.org/活動報告/>

## タオル備蓄のお願い

皆様のご協力により、昨年は備蓄の清掃用タオルを延べ10府県15か所に3,179枚の支援ができました。近年、台風・洪水等の被害が、全国的に多発しています。さらに今年は、能登半島支援でも多数必要になることが想定されます。

まずは人命救助が最優先ですが、その後の復旧作業等でタオルがとも役立ちます。

ご自宅でご持っているフェイスタオルとバスタオルの備蓄に、ご協力いただける方(グループ)は、HPAにご連絡ください。

なお、タオルは新品と使用済みを仕分けして、皆さまのお手元で一次保管をお願いします。

一定量(段ボール一箱)になりましたら、事務局へご連絡ください。送り先をご連絡しますので着払いでお送りください(送料はHPAで負担します)。

令和5年12月24日、スマイル子ども食堂は、熊本県益城町の災害公営団地（広崎第3団地・43戸）でクリスマス会を実施しました。

益城町の仮設団地では、すべての入居者の住まいの再建が完了し、令和5年3月末で仮設団地が閉鎖されました。熊本地震の被災者は、県内11か所の仮設団地をはじめ、民間の賃貸住宅を借り上げる「みなし仮設」などに、最大2万255戸、約4万7800人が避難しました。地震から約7年8か月が経過し、被災した人たちは、自宅を建て、あるいは災害公営住宅などに移り住み、新しい生活を始めています。

広崎第3団地は、旧木山仮設団地の自治会長が住む団地でもあり、移動図書館やスマイル子ども食堂を旧木山仮設団地で実施していた「縁」もあり、元自治会長が住む団地でクリスマス会を行うことにしました。

クリスマス会のメインは、子ども食堂。メニューはいつものカレー。団地の



住人の方々もサラダを添えてくださいました。カレー作りには、子どもたちもお手伝いします。地震当時は小学校入学前の子どもも、今は小学校高学年です。お手伝いも、以前と比べるとかなり強力です。

カレーの次は、手作りのクリスマスケーキ。ホワイトクリームとチョコクリーム、2種類が出来上がりました。カレーを作り、ケーキを食べ、楽しいひと時を過ごしました。参加者からは、「仮設団地に住んでいたころとは違って、みんなでワイワイ過ごす行事も少なくなりました。少し寂しい思いもしますが、年に数回でもこうした行事を催してくれるとうれしい」との声が上がっていました。

今回のクリスマス会も、ひかりプロジェクトから支援を頂いて実施することができました。心より御礼申し上げます。今後も細く長く支援活動を行ってまいりたいと思っております。引き続きご支援をお願いいたします。

### 編集後記

▼ようやく3月に、被災地を訪問することができました。

▼発生直後は人命救助最優先で、自衛隊や消防、警察等の方のご尽力が報じられていました。私たちもできる限りの支援をと、募金活動や友好団体との連携協力を模索してきました。

▼今号は、被災者の方々に元気や勇気を届けたいと願う気持ちで被災地に駆けつけられた方をご紹介します。

▼私も、被災状況を目の当りにして、新聞やテレビで見ただけとは違う、空気においを体で感じました。

▼倒壊したままの状態の家屋や、液状化で地面がうねっている道路や庭先、微妙に傾いている建物等、今回の地震の大きさに驚かされました。

▼何より、2か月経過しても手つかずの状態にあることに、復旧支援の困難さや、作業メンバーの安全確保、そのための準備の必要性を感じました。

▼富山県射水市に拠点も決まり、4月末から被災者支援のボランティア活動を開始します。皆さまのご参加をお待ちしています。

富山県射水市太閤山9-1-1  
クローネ太閤山B棟101

富山駅と高岡駅のほぼ中間地点  
JR小杉駅から徒歩約20分

▼編集作業中に、3月11日を迎えました。東日本大震災から13年です。

テレビや新聞等では、11日前後に大々的に報じていましたが、まだまだ課題はたくさんあり、完全に復旧・復興しているわけではありません。

▼東北各地から能登半島の被災地へ、応援のメールが多く寄せられたそうです。諦めずに、少しずつでも前を向き進めば、必ず道は開けるというメッセージではなかつたかと思えます。

(大江 靖)

### 能登半島被災者支援募金

1月5日、緊急にボランティア委員会を開催し、まず、被災者支援の募金活動を行うことを決めました。会員の皆様へのお願いを送り、多くの方々からご協力を頂きました。

4月8日現在、個人89名、12団体から、1,424,288円をお寄せいただきました。ありがとうございます。この募金は、4月末から始まる活動や仮設住宅ができた後、寄り添い支援の様々なイベント開催のために使わせていただきます。

今後とも、皆様の温かいお心をお寄せくださいますよう、よろしく願いいたします。

★郵便振替：00210-2-137823

★ゆうちょ銀行：記号10890 番号16718311

### ひかり新聞

No.49 2024年(令和6年)4月10日

発行者：一般社団法人ひかりプロジェクト

〒401-0304 山梨県南都留郡富士河口湖町河口1975

電話 0555-72-8191 FAX 0555-76-6696

https://www.hikari-project.org E-mail:hpa-office@hikari-project.org